

# あいち農産物生産流通レポート

平成20年5月号

情報サロン		
・コールドチェーンへの取組	(東京事務所)	1
地域トピックス		
・白地に赤い縁取りの花がいっぱい咲くスプレーカーネーション 「カーネ愛知3号」の開発	(農業総合試験場)	2
東日本情報		
・ブライダルコーディネーターの求める花と産地への提言	(東京事務所)	3
西日本情報		
・施設園芸の原油価格高騰対策を支援します	(園芸農産課)	5
フラワーページ		
・東京のど真ん中で愛知産花きをPR	(東京事務所)	7
青果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)		8
・名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し		9
花き		
・切花・鉢花の5月の見通し(県内市場)		21
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2008年2月)		25
関連指数		26

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

## コールドチェーンへの取組

近年、首都圏における青果物流通において、産地から消費者まで繋がるコールドチェーンを確立する大規模な低温施設の整備が進んでいます。平成14年11月に稼働を開始したJA全農青果センター(株)を始め、平成18年度以降、卸売会社である横浜丸中青果(株)、東京多摩青果(株)、東京千住青果(株)でも大規模な低温売場を整備し、コールドチェーンを確立した流通に取り組んでいます。

市場外流通大手企業の株式会社ケーアイ・フレッシュアクセス(KIFA)も埼玉県川越総合市場内に、コールドチェーンを保つための温度管理や在庫調整、従来量販店で行われていたパッケージ加工、商品の受発注管理、代金決済機能などを持つサービスセンターを設置し、平成19年8月に稼働を始めました。

以下、KIFA担当者の話を紹介します。

サービスセンターの低温施設では、青果物の消費地在庫機能を持たせ、最大で1800パレット収納できます。334坪と240坪の冷蔵庫エリア2室と685坪の仕分けエリア、195坪の加工エリアがあり、密閉式のため全てのエリアで温度管理ができ、概ね2週間は貯蔵できます。

産地で収穫して、予冷し低温輸送されてきた青果物をこの施設で低温貯蔵し、加工(カット・リパックなど)仕分けまで行うことができ、そのまま低温輸送で量販店の売場に並べられるまでの間、コールドチェーンが確立されます。(産地からの輸送について冷蔵車手配のアシストも行います。)

特に、加工については、**産地からの出荷形態(流通最小ロット)**が量販店での消費にマッチしていないことに着目し、ある量販店との取引において、このセンターで加工済みのものを納品することで、量販店でのロスや労務コストを主に25%削減でき、売り上げを20%伸ばすという成果を残しました。

トレーサビリティについても、従来の量販店は、仕入れを複数の業者から行い、小分けしてパッケージしてしまうため、クレームの対応も完全ではありませんでしたが、商品の出入り情報のIT化を進め、確実にトレース出来るようにしています。

市場内・外は関係なく、**消費者の視点**で末端小売や消費者の声を、市場や産地へつないでいき、流通業界全てに利益をもたらすことを目標にしています。

今後も、コールドチェーン確立に向けた取組が一層進んでいくと思われます。



KIFA施設内、冷蔵庫エリア

白地に赤い縁取りの花がいっぱい咲く  
スプレーカーネーション「カーネ愛知3号」の開発

農業総合試験場花きグループでは、平成11年から愛知県花き温室園芸組合連合会カーネーション部会および育種クラブの協力を得て、栽培しやすく市場性の高いスプレーカーネーションの育成を目標に品種改良に取り組んでいます。

カーネーションは、母の日のプレゼントやフラワーアレンジメントの素材として、なくてはならない代表的な切り花です。しかし、近年はコロンビアや中国など、生産コストの安い国々からの輸入が増加したため市場価格は低迷しており、一層のコスト削減を迫られています。生産者からは、ロイヤリティの負担が少なくてすむ本県育成のオリジナル品種が求められていました。

今回紹介する「カーネ愛知3号」は、平成15年の茶系色の「エアーズロック」、平成17年のピンク地に白い縁取りの「ドリーミーピンク」に続き、愛知県で育成された3品種目のカーネーションです。

#### 育成経過

「カーネ愛知3号」は、平成13年から6年かけて開発しました。125の交配組み合わせを試し、約8千の実生株\*から選抜を重ね、最終的にできた新品種は、桃赤色と薄ピンク色の系統を掛け合わせて生まれました。平成19年12月19日に品種登録出願し、平成20年3月4日に出願公表されました。

\*実生株：たねまきを行い種子から育成した株

#### 「カーネ愛知3号」の特徴

- ・ 花色は、白地に赤の縁取りで、消費者に好まれ普及性が高いものと思われます。
- ・ 収穫できる切り花の本数は従来品種と比べほぼ同等ですが、茎には十分な強度があり、伸びが良かったため、9割以上が秀品となります。
- ・ 輪数が多く、ボリューム感のある切り花が採れます。
- ・ 中晩生タイプで、6月下旬定植の通常栽培では、一番花の本格的な収穫は12月で、翌年の6月上旬まで収穫できます。



カーネ愛知3号

「カーネ愛知3号」は、切り花約7万本規模の栽培が始まっています。本格的な栽培に向けて、生産農家や種苗会社などと連携して苗を増やし、平成22年以降に年間40万本の出荷を目指します。この品種が県のオリジナル品種として県内産地の活性化に役立つことを期待しています。

## ブライダルコーディネーターの求める花と産地への提言

花き流通情報連絡協議会<sup>\*1</sup>で都内および神奈川県内で3つの式場を経営・コーディネートする株式会社リビエラ東京<sup>\*2</sup>業務部フラワー課次長の京谷健司さんから「実需者の求める花と産地への提言」というテーマで講演がありましたので、その内容を紹介します。

### 1 ブライダルの動向

結婚式の数が年間70万組と年々減っているなか、内容はハデ婚、ジミ婚に2極分化し、その差が拡大している。また、少子化により両親が費用を負担するケースが増えており、ハデ婚客の獲得のため、花を装飾する意義をユーザーに訴えかけるなど努力している。一般的な80名の挙式の費用は平均400万円ほど掛かるが、そのうち花は平均28万円ほどであり、値段の構成要素は、卓上花が5割を占めている。しかし、当社では新郎・新婦らしさを出すための型にはめない提案型販売を展開しており、1組当たりの花使用額は40万円（07年平均）である。

### 2 ブライダル業界が求める花

#### (1) 会場のコンセプトに沿った装飾

会場、花、ドレスの色をコーディネートするトータルウエディングが人気である。使用する花の半分（金額）は、会場を装飾する卓上花で、あとは新婦のブーケ（ウエディングドレス、カクテルドレス、トスブーケ）であり、ブーケの色合いは新婦のドレスの色に左右される。また、最近では式の中でトスブーケ（新婦が後ろ向きでブーケを投げ、受け取った人が次に幸せになるというイベント）を行うようになってきている。

ガーベラは色が豊富で使用しやすいが、花屋が売れない色を束で安売りしたことからイメージダウンし、ウエディングではほとんど使用されなくなった。高級感を出すためには、花の種類も重要である。

#### (2) 新郎・新婦を演出する個性型商品

例えば、2人の趣味がサーフィンなら卓上花を海をイメージしたデルフィニュームなどの青色の花で飾るなど、他にない演出をアピールすることで個性型商品を提案している。

(3) 季節感を売りにしたバンケットの装飾

2～3月であれば季節の先取り提案、季節感のある花（桜、チューリップ、アジサイ、ひまわりなど）を使用。



3 産地への提言

(1) 産地との情報の共有

- ・ 大量生産化までの事前協議、試作品の提供。
- ・ フローリスト側の生の声を真摯に受け止める。
- ・ 生産者側の独断で商品（品種）の廃盤などがある。一方ある品種が流行するとその品種のみを増産する傾向があるので現場（実需者側）での動向を注視してほしい。
- ・ 他にない独自の商品（品種）開発：種苗会社に頼らないオリジナル品種の開発
- ・ プライダルフェアの見学で動向を知って欲しい。  
= 自分たちの花がどう使われているのか知っていますか？

(2) 方向性を示す

- ・ 自分たちの商品の位置づけの明確化（小売、ウエディング、葬儀、大手量販）  
個性的な商品の確立を図る。  
ブランド力の強化の推進 = 他者（社）との差別化（事例：オールド系バラ）
- ・ 固定観念の打破をフローリスト側に働きかける。  
（きく以外の洋花が葬儀で使われるようになった。）
- ・ フローリストへ使ってもらうためにはどうしたらよいか、意見交換が必要である。

(3) これからのあり方

- ・ 市場担当者に任せず、自分たちが実際に店舗に出向き自分で商品を目視し、現場を知ってほしい。
- ・ 新商品を定期的に生産。年間を通じてイベントの仕掛けを打ってほしい。
- ・ 花の消費量が多い時期に供給できる体制の構築  
（1月、2月はイベント需要が多いが、供給量は少ない）

\* 1：都県、県連、全農県本部など38会員、賛助会員として花き卸売会社6社が加盟。

\* 2：都内、神奈川県内に3つの式場を運営し、年間2,100組の挙式を行う。花のコーディネーターも自社で行っている。

## 施設園芸の原油価格高騰対策を支援します。

## 1 原油価格の高騰

世界的な石油需要の急増、OPECの原油生産余力の低下に加え、産油国の政情不安などが重なり、平成16年度以降、原油価格が高騰しています。

営農用A重油の農家売渡し価格（1リットル当たり税込み）は、平成16年1月には37.0円でしたが、18年1月には62.8円、19年1月には66.2円、20年4月現在では89.1円となり、この4年間で約52円の値上がりとなっています。

本県は全国屈指の施設園芸（野菜、果樹、花き）産地を形成していますが、暖房に用いる燃油（営農用A重油等）価格の高騰に伴い、施設園芸農家の経営が圧迫されています。

営農用A重油の販売価格の推移

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
1月	37.0	44.5	62.8	66.2	83.9
2月	37.0	44.5	65.9	65.6	83.9
3月	37.0	45.0	62.8	62.0	83.9
4月	39.1	51.3	62.8	63.0	89.1
5月	39.1	54.5	67.0	67.7	
6月	39.6	54.5	69.1	70.2	
7月	42.9	57.6	69.6	72.3	
8月	42.9	60.8	75.1	73.9	
9月	45.6	61.8	75.1	70.2	
10月	45.6	61.8	70.4	72.3	
11月	46.1	60.8	66.2	76.5	
12月	45.0	60.8	66.2	83.9	
年平均	41.4	54.8	67.7	70.3	

（注）価格は農家売渡し価格（1リットル当たり税込み）  
JAあいち経済連からの聞き取り

## 2 原油価格高騰に対する取組

こうした原油価格の高騰に対して、県では石油価格等高騰対策技術指針を策定し、農家が燃油を節減するための技術的な対策をお知らせするとともに、平成18年度から各農林水産事務所農業改良普及課に相談窓口を設置しています。

また、燃油使用量を削減することができる省エネ設備の設置を推進しています。

## (1) 多段式サーモ装置

施設内の温度を作物の生理に合わせて変温で管理することにより、夜間の設定温度を抑制し、燃油使用量を低減します。燃油削減率は約12%です。



多段式サーモ装置

## (2) 排熱回収装置

暖房機からの排熱を有効利用することにより、暖房効率を高めめます。燃油削減率は約8%です。

## (3) 循環扇

施設内の温度ムラを解消し、栽培環境を均一化することにより、暖房効率を高めめます。燃油削減率は約10%です。



排熱回収装置

## (4) 三重カーテン

施設の被覆を三重にすることにより、施設内の保温効果を一層高めめます。燃油削減率は約30%です。

## (5) 空気膜被覆

施設の外部被覆を二重構造にして、その間に送風することにより施設内の保温効果を一層高めめます。燃油削減率は約40%です。



循環扇

## 3 省エネルギー化推進産地整備事業について

平成19年度から、県の助成事業である地域農業振興事業のメニューに省エネルギー化推進産地整備事業を創設し、省エネ設備の設置を支援しています。平成19年度はみかん農家ときゅうり農家を対象に、排熱回収装置や三重カーテンなどの設置に対して支援してきました。

本年度も引き続き、これらの省エネ設備の導入する産地を支援します。補助対象となる省エネ設備は、多段式サーモ装置、排熱回収装置、循環扇、三重カーテン、空気膜被覆の5つです。

## 4 NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）による高効率暖房機等への助成

こうした省エネ設備の設置だけでなく、既設の施設園芸用暖房機をエネルギー効率の高い暖房機に替えることによっても省エネ効果を得ることができます。

高効率暖房機に代替する取組に対する助成は、18年度からNEDOが実施しており、これまでに県内では665台の高効率暖房機が導入されてきました。また、19年度の3次募集からは、新たにヒートポンプが助成対象となり、県内で59台導入されてきました。本年度も4月から募集が始まっていますので、農協及び農林水産事務所等に御相談ください。

## 東京のど真ん中で愛知産花きをPR

- 県花き連、青山フラワーマーケットと組み  
「丸の内フラワーウィークス」へ出展 -

「丸の内フラワーウィークス 2008」\*<sup>1</sup>は、「花や緑、庭」をキーワードとして4月19日(土)から27日(日)までの9日間、丸の内仲通り、丸ビル、新丸ビルを主会場として東京・丸の内エリアで開催されました。県花き連は青山フラワーマーケット\*<sup>2</sup>と組み、メイン展示会場の丸ビルでディスプレイ展示を行いました。

丸ビル、新丸ビル、丸の内仲通、東京フォーラムなど丸の内一帯で様々な展示や催事が行われました。メイン展示は、丸ビルでは「祝祭」をテーマに全国から集められた花きが展示され、新丸ビルでは、フラワーデザイナーによるバラの展示、さらに目抜き通りの丸の内仲通りでは、花のパレットとハンギングバスケットが春を演出しました。見物目的で来た人だけでなく、当エリアで働くOLも多数訪れました。

丸ビル1階マルキューブでは、生産地から届く品種の多様性、新しい花の素材提案、ディスプレイ技術など、いろいろな花の楽しみ方が紹介されました。

県花き連は、切り花ではきく、めずらしい色合いのカーネーション、香りの強いばら、また、鉢ものでは、ベゴニア、アジサイなどのオリジナル品種を提供しました。

ディスプレイは「花屋の店頭」をモチーフに青山フラワーマーケットが飾り付けました。来訪者からは、「愛知県が全国1位の花き産地であることを知らなかった」、「めずらしい色や形の花がある」といった感想がありました。また、飾り付けを担当した同店の担当者からは、「こうした取り組みを通じて、愛知県にはおもしろい花形や色合いの品種があることを知ることができました。花の販売にはこうした目新しさは必要であり、今後、新しい生産者・産地と交流を促進し連携を深めていきたいと思っています」といった感想がありました。



\* 1 主催は丸の内フラワーウィークス実行委員会、同委員会は東京都、地区再開発推進協議会、(財)日本花普及センターなどで構成。

\* 2 現在、東京を中心に 55 店舗を全国に展開、主にエキナカ、駅周辺など人の集まりやすいところに店を構えている。数百円という手頃な値段で、日常使える花を販売。強引な接客をしない販売スタイルから、特に若い女性に支持されている。仕入れを現場に任せ店舗ごとに品揃えを変えるなど、経営面からも注目されている。



# 愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

## 名古屋市中央卸売市場（品目：みつば）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
19年実績	65	63 (97%)	289	282	静岡 (2%)
20年見通し	64	63	280	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>みつばは水耕栽培で周年栽培されているが、春・秋は品質が良い時期であり、安定している。</p> <p>作付は価格低迷に伴って、年々減少が続いており、今年も同様の傾向である。</p> <p>入荷量は、前年並み、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>			<p>土用丑や年末年始などのイベント時のみに消費が集中しており、特に、若年層の消費が減少している。3月中旬から5月上旬に、おひたしの試食宣伝等をして、日常の消費を促すことが必要である。</p> <p>出荷時の入り数が、30入りの場合と20入りの場合があるので、統一してほしい。</p>		

## 東京都中央卸売市場（品目：ペコロス）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
19年実績	19	16 (83%)	405	400	オーストラリア (12%) ニュージーランド (3%) アメリカ (2%)
20年見通し	18	-	415	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>北海道からの入荷は3月でほぼ終了。4月上旬からは本県産の入荷が始まり、下旬にかけて本格化するも、ここ数年は作付面積の減少傾向が続いており、入荷量はやや少なくなる見込み。</p> <p>全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>			<p>ペコロスは業務向け、量販向けともに安定した需要がある。本格的な入荷時期を迎えるが、気温の上昇に伴い乾燥不足による傷みの発生には十分に注意して欲しい。玉揃いは良いので、需要の多いM玉を中心として正確に選果してもらい、安定出荷をお願いしたい。</p>		

# 関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		全国 平成17年 = 100				
		愛知県 平成17年 = 100				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	18年平均	100.3	105.8	104.0	100.8	102.2
	19年11月	100.7	100.9	104.6	104.0	101.8
	12月	100.9	104.5	99.7	104.4	102.5
	20年 1月	100.7	104.9	103.8	105.2	104.1
	2月	100.5	105.0	99.0	105.6	103.1
愛 知 県	18年平均	100.2	103.9	102.5	99.8	103.9
	19年11月	100.7	97.4	102.5	103.6	100.9
	12月	100.7	100.6	98.4	102.2	102.3
	20年 1月	100.4	98.2	99.9	102.1	102.9
	2月	100.1	99.1	97.5	104.0	99.0

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
18年平均	18年平均	102.9	97.8	108.2	120.6	99.0
	19年10月	100.7	89.8	114.1	112.2	100.2
	11月	94.7	91.5	94.0	113.2	99.2
	12月	98.0	92.5	106.9	98.1	101.7
	20年 1月	92.7	91.9	101.0	72.8	97.2
2月	99.7	92.3	117.6	83.9	100.7	

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」  
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単-品種、 「コヒカリ」 以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年平均	2,256	174	184	606	426	278	161	359	217	538	630	193	502
19年11月	2,210	131	124	624	310	252	128	298	199	560	720	190	553
12月	2,203	135	108	652	433	273	127	290	196	561	774	219	491
20年 1月	2,198	135	116	610	396	271	114	260	201	666	642	220	468
2月	2,223	158	122	619	497	249	114	253	199	751	601	216	458
品目 単位 年月	みかん	グレフ イル プ イツ	オレン ジ	いちご	バナ ナ	キ ウ イル イツ	緑(せ 茶ん 茶)	カ ネシ ン	き く	パ ラ	豚(口 肉 ス)	牛(口 肉 ス)	ま ぐ ろ
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 本	100g					
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年平均	546	354	404	153	245	686	609	159	168	312	233	793	497
19年11月	457	366	482	-	247	699	594	157	167	317	225	781	488
12月	429	421	482	184	247	698	605	167	172	335	219	777	487
20年 1月	446	424	467	172	253	645	616	160	168	314	225	772	543
2月	427	379	416	158	253	653	594	163	171	340	223	826	504

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 419  
平成20年5月発行  
農林水産部食育推進課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6417